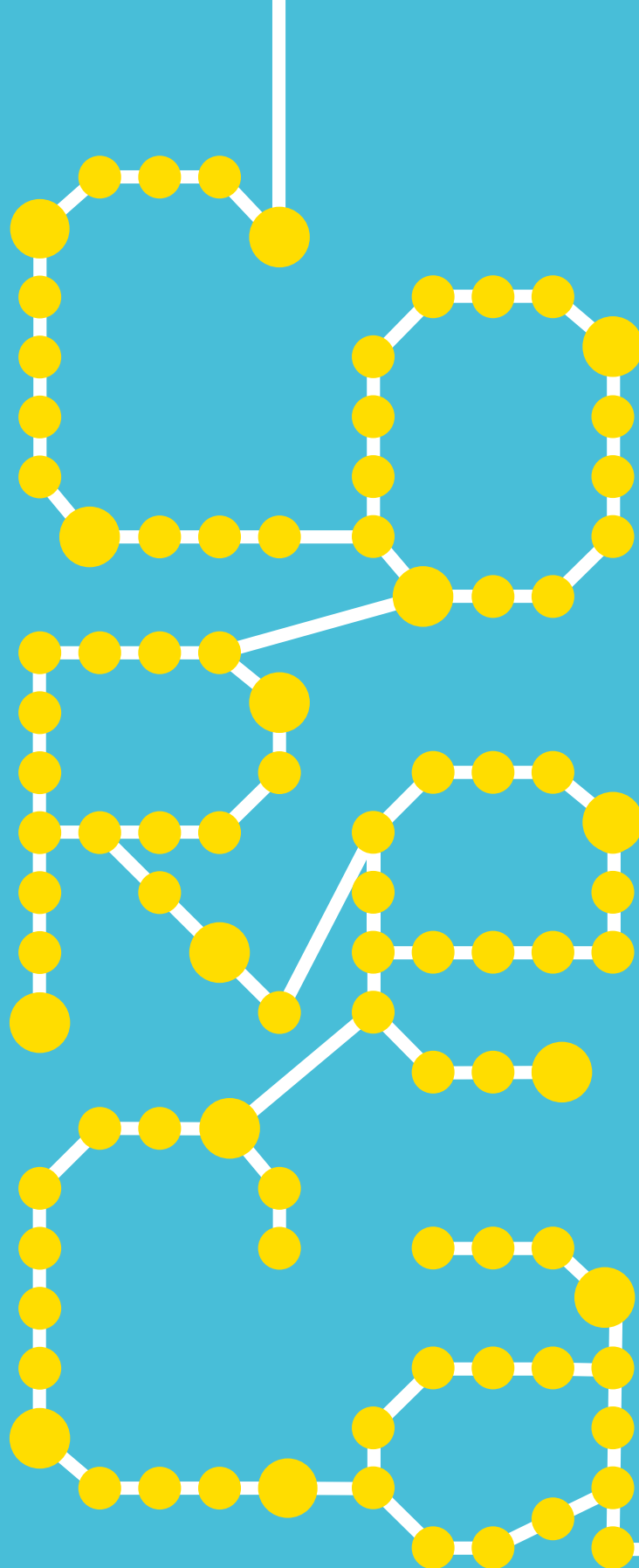




2015-2016
事業報告





人やモノや情報が国や地域を越えていくグローバル社会。
日本国内でも学校で、地域で、職場で、
多言語・多文化状況が進んでいます。
グローバル化が進展するこれからの時代、
子どもたちの活躍の舞台はますます
世界に広がっていくでしょう。
こんな時代を生きていく子どもたちが
自分たちの未来を切り拓いていくために
必要な力は何でしょうか。
他者と対話する力、共感できる力、
異なることば、異なる文化の人びとと協働し、
新しい何かを創造する力……
私たちはこれらの力を育むための
外国語教育と交流事業を国内外で行っています。

小	大	生
さ	き	む
な	な	
き	チ	
つ	ヤ	
か	レ	
け	ン	
が	ジ	
	を	



評議員会長

野間省伸

公益財団法人国際文化フォーラム（TJF）は、財団設立以来、若い人たちのチャレンジを応援してきました。未知の世界に踏み出すには勇気が必要ですが、ときとして小さなきっかけから予想もしていなかった展開につながっていくこともあります。

私もそんな経験をいくつもしましたが、記憶に鮮明に残っているのは、友人4人で大学の卒業旅行を計画していたときのことです。ひとりがインドに行こうと言いだしました。少し前にインドの実業家でもあるマハラジャと話をする機会があり、「インドに来るときはぜひ連絡を」と言われたというのです。社交辞令だからとしり込みするところですが、その友人は連絡をとりました。3泊4日のインド滞在で私たちを待っていたのは、なんと宮殿での食事でした。あとき友人が連絡をとらなければ、こんな貴重な体験はできなかったのです。

また6年前、台湾で電子書籍の状況について、出版社だけでなくIT企業とも意見交換をする機会がありました。台湾企業のCEOが講談社のコンテンツと彼らのテクノロジーを組み合わせたビジネス構想のプレゼンをした際、私はその場で「よし、やろう！」と即答しました。このときの素早い対応によって大きな信頼関係が生まれ、すぐに話がまとまりました。その後、台湾に関連会社を設立し、ビジネスは順調に進んでいます。

近年、若い人たちの内向き志向をよく耳にしますが、きっかけを見逃さず、歩を前に進めてほしいと思います。それが大きなチャレンジにもつながるにちがいありません。TJFも常にチャレンジを続けたいと思っています。皆さまの一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

新	だ	で
しい	け	は
こ	が	な
と	チ	い
に	ヤ	
挑	レ	
戦	ン	
す	ジ	
る		



理事長

渡邊幸治

公益財団法人国際文化フォーラムは、若い人たちが新たなことばと文化に出会うことを願って事業を行ってきました。新たな世界を開くためには、若い人たちだけでなく誰もがチャレンジすることが必要です。

私にとつてのチャレンジは毎日英語の辞書を引くことです。初めて英語にふれたのは、父の転勤でバンコクに暮らしていた小学6年生のときです。開隆堂出版の中学生向け教科書『Jack and Betty』を手渡され、父が教えてくれました。同じものでも日本語では「机」、英語では「desk」と、いろいろな言い方があることを知って、世界が広がっていくような感覚をもちました。そしてそのとき父に言われた「語学っていうのは時間をかけるほど進歩する。しかし、努力しないと進歩しない」ということばが忘れられません。それもあってか、複数の英字新聞や雑誌、インターネットの記事を読みます。わからない単語が出てく

るとすぐに辞書を引くようにしています。ですから、すぐ引けるように、コンサイスの英和辞典を4冊持ち、2冊は自宅の書斎とベッドの枕元、あとの2冊はここTJFともう一つの事務所に置いています。調べた単語には線を引くのですが、毎日何かしら新しい単語に出会います。辞書に載っていないものもあります。だからこそチャレンジなのです。

そして、日本のメディアだけでなく、英字新聞や雑誌も読むと、一つのことがらを多方面から見られるようになります。そうするとおのずと複眼的な視点が得られます。私にとつての英語は、そのためのツールになっています。

若い人が新たな視点を得ることを応援する事業を今後も推し進めていきたいと思っています。皆さまのご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

21世紀に必要な力を考える

どんな〈新しい能力〉を 育てるのか

アクティブラーニングを深めるために

松下 佳代

京都大学高等教育研究開発推進センター教授



〈新しい能力〉の氾濫とその背景

この20年の間、さまざまな「能力」や「力」が教育界で提唱されてきました。例えば、国内では「生きる力」「社会人基礎力」「学力」「学力の3要素」「21世紀型能力」、世界的には「キー・コンピテンシー」「PISAリテラシー」「21世紀型スキル」などなど。私はこのような能力を総称して〈新しい能力〉と名づけました。〈新しい能力〉とは、1990年代頃からの後期近代社会（ポスト近代社会）といわれる社会において求められるようになった能力のことです。

後期近代社会の特徴としてグローバル化、情報化、流動化を挙げることができます。私たちの生き方や働

き方はこういった社会の変化の影響を否応なく受けています。例えば、情報化。ウインドウズ95の発売に沸いたのが1995年。それから20年、今やAIが囲碁のトップ棋士を打ち負かし、自動運転の車が公道を走り、雑誌記事でさえAIが書く時代です。子どもたちが社会人として生きていく頃にはもっと大きく変わっていることでしょう。オックスフォード大学のC・A・フレイとM・A・オズボーンは、2013年に出した「雇用の未来」という論文のなかで、10〜20年後には、今ある702の職種のうち47%がコンピュータに代替されるだろうと予測しています。

流動化には空間と時間の両方の意味があります。例えば、人びとが国境をこえて行き来しながら学び、働

くようになったことは、空間的な意味での流動化です。人生で、いったん就職してまた大学に戻るということには、時間的な意味での流動化も含まれています。

流動化はリスク化もはらんでいます。特に日本の場合、1990年代半ば以降、終身雇用制という定番が崩れて、人びとが自らの力で人生のさまざまな局面を切りひらいていかなければならなくなってきました。グローバル化は流動化を推し進める役割を果たしています。

このような後期近代社会の特徴は、多かれ少なかれ、また多少時期のずれはあれ、多くの国々で見られます。だからこそ、後期近代社会において必要な〈新しい能力〉が世界的な関心事になっているわけです。

〈新しい能力〉をどう捉えるか

〈新しい能力〉は、冒頭に挙げたようにさまざまな「○○力」の総称ですが、私がこのような総称を使ったのは、まずは一括りにした上で、一つひとつ検討して、そのなかから教育目標として価値のあるものを選択したり、再構成したりしようと考えたからでした。

■OECDのキー・コンピテンシー

〈新しい能力〉のなかで私が最も共感を覚えるのはOECDのDesecoのキー・コンピテンシーです。これは、「充実した人生」と「うまく機能する社会」をもたらすために、国籍・民族・階層・ジェンダーを問わずすべての

個人に形成すべき能力として提案されたものです。

このキー・コンピテンシーは「道具を相互作用的に用いる」「異質な人びとからなる集団で相互に関わりあう」「自律的に行動する」という三つのカテゴリーからなり、それが3次元座標のように組み合わせられて機能すると考えられています。これらは、「対象世界との関係」「他者との関係」「自己との関係」という人間の活動を構成する三つの軸に対応しています。その中心、いわば座標軸の原点にあるのは、思慮深さ(reflectiveness)振り返って自分でよく考えることです。

■能力の普遍性と時代性

ところで、こう書くと、これらの能力のどこが新しいのかと感じる方もおられるのではないのでしょうか。

その通りです。人間の活動が主体（自己）、対象世界、他者の三者で構成されるというのは、いつの時代も変わらぬ構造です。したがって、能力の3軸構造も一定の普遍性を持つといつてよいでしょう。しかし同時に、その中身は時代によって変わってきます。

例えば、対象世界には、かつてなかったような地球規模の課題（例えば、持続可能な発展や格差の縮小など）が含まれるようになり、その際のも道具として外国語や科学、政治、テクノロジーなどの知識やスキルが必要とされるようになりました。また、他者の範囲は大きく広がり、人種・民族・宗教・文化などの異なる他者と協働したり、対立を何とか調整したりすることがいっそう重要になってきています。さらに、人生のプランを立てたり、人生で何度も学び直

したりする能力も、これまで以上に求められるようになってくるでしょう。

■学力の3要素

では、「学力の3要素」は、〈新しい能力〉としてどんな特徴を持っているのでしょうか。ご存知のように、学力の3要素は、2007年の学校教育法改正で条文に加えられましたが、2014年12月の高大接続改革答申や次期学習指導要領の議論のなかで内容や適用範囲が拡張され、今や初等中等教育だけでなく高等教育（大学のアドミッション・ポリシー）にも影響を与えています。その中身は、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等の能力、③主体性を持つて多様な人びとと協働して学ぶ態度の三つにまとめられています。とり

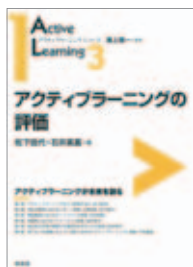
Matsushita Kayo



松下佳代編著、ミネルヴァ書房、2010年発行



松下佳代他編著、勁草書房、2015年発行



松下佳代・石井英真編、東信堂、2016年発行

21世紀に必要な力を考える

自己表現への 意欲が学ぶ力に

田中 容子

京都府立園部高等学校指導教諭



「自ら思考判断し、意見を発信する力」は英語教育を舞台としたときどのように形成されるのか？―それを考えるとき私の脳裏に浮かぶのは、過去に出会った授業の成立に困難を極めたあるクラスです。当時、私はそのクラスで英語Ⅱ（30人）と選択科目の英会話（7人）を担当していました。どちらの授業も最初は大変苦労しましたが、より困ったのは英会話のほうでした。始業のベルと同時に机に突っ伏して寝てしまう生徒たちを前にして、私は当初なすすべがなかったのです。しかし、試行錯誤のなか、「何をするにしろ英語を使えば英会話の授業になる」との判断から英語を使った「ホットケーキ作り」に取り組んだとき、転機が訪れました。ホットケーキを作る工程を単純な英語で表現し、それを練習したのちに、

「調理中は英語で」という約束をして、ホットケーキを焼いたのですが、“Put a cup of flour.” “And a cup of milk.” “Is it good?”等の英語を私が発話し、生徒たちから“OK.” “Oh, it’s good.”などの応答がなされました。一見してごく単純な言語活動にもかかわらず、そこには生徒たちの生き生きと取り組む姿があり、ここにその後の授業展開への大きなヒントがあったのです。言語活動が生徒にとって現実感のあるものであれば授業が生徒に関わりのあるものとなり、授業の場が生徒の主體的な居場所となるのだ、という気づきを得た瞬間でした。

聴きとる活動に生徒たちを引き込んでいきました。例えば積み木の塔から積み木を一本ずつ抜いていくゲームで、自分の抜いた積み木に“How old are you?”と書かれてあれば、英語でそれに答える、“Please ask Mayumi how old she is.”と書いてあればそのクラスメートに英語で質問する、というふうに、生徒たちのダイナミズムに依拠した形でどんどん言語活動を進めました。“How old are you?”の積み木を引き当てたBくんは、「16歳やけど、16ってどう言うの？」とつぶやき、「オマエ、sixteenも知らんのけ」とAくんが教える、という場面なども生まれました。そして、この英会話の授業で見出された活路を私はそのまま英語Ⅱの授業に応用しました。さまざまな試行錯誤はありましたが、生徒たちは次第に授業に参加し始め、

最後には英語で写真集を制作して卒業していききました。「学習活動の当事者」になった生徒たちの力は私の想像を超えたものでした。

本校には異なる四つのコースがあり、高校入学時にすでに英字新聞を読む英語力を持っている生徒もいれば、英語の語順への理解から学び直す生徒もいます。私たち英語科は多様な生徒たちを多様な角度から評価

することをめざして、ここ10年来パフォーマンス課題を取り入れてきました。パフォーマンス課題とは、生徒に現実の世界からの挑戦や問題を模した課題を与えることで、「真理性」を教室にもたらそうとするものです。生徒が獲得した知識やスキルを応用して現実的な状況や文脈で使いこなせるかどうかを評価するために用います。唯一の正しい方法や応答

英語の得意不得意にかかわらず、
すべての生徒にとって英語による
意見の発信は可能です

はなく、さまざまな思考、判断、表現が求められる、生徒に能動的な参加を求める評価課題です。私がこれまで生徒たちと取り組んだ課題には、「学校であなたが一番気に入っている場所を写真に撮り、なぜその場所がお気に入りなのかを説明してクラスメートに紹介してください」「研修旅行が終わりました。今回の旅程のなかで後輩に最もおすすめしたい場所や活動をひとつ、英語で紹介してください」などがあります。課題に

Cheer up! 3-1

このコースで卒業までに育てる英語の力*読む力:文構造を理解し、前からすばやく内容をつかんで読み進めることができる。物語文をどんどん読める。評論文の論旨の展開が理解できる。書く力:興味のある幅広い分野に関して、理由や説明文などを加えて、より具体的に意見や感想を書くことができる。

Name _____ 2008-10-30

英語を話す。以下の問いをそれぞれ違う人に対してして、答えを書き取ってください。

What did you do last night? 誰に? () 応答 _____

What time did you get up this morning? 誰に? () 応答 _____

What is your town's name? 誰に? () 応答 _____

Do you have brother or sister? 誰に? () 応答 _____

英語を書き取る。話される英語を聴き取って書いてください。

「クマのぶーさん」から

1 One day when he was out walking, he came to an open place in the middle of the forest, and in the middle of this place, there was a large oak tree, and, from the top of the tree, there came a loud buzzing-noise.

2 Winnie-the-Pooh sat down at the foot of the tree, put his head on his paws and began to think.

3 “That buzzing-noise means something.

4 If there is a buzzing-noise, somebody is making a buzzing noise.

5 Maybe a bee is making a noise.

6 What is it doing?

7 I’m sure it is making honey. Why? For me!”

8 He began to climb the tree.

もう少しでハチミツに届きそうになって、プーが次の枝に乗ったとたん、「ボキン!」枝が折れました。

今回紹介したクラスで使っていたワークシート。生徒が飽きないように、話す・聴く・読む・書くの4種類の言語活動を一回の授業に盛り込んでいる。生徒が興味を持てるよう、英文はA.A.ミルンの“Winnie-the-Pooh”の原文から抜粋した。

特集 21世紀に必要な力を考える

TOKのねらい

1. 知識の構築に対する批判的（クリティカル）なアプローチと、教科学習、広い世界との間のつながりを見つける。
2. 個人やコミュニティーがどのようにして知識を構築するのか、その知識がどのように批判的に吟味されるのかについて、認識を発達させる。
3. 文化的なものの見方の多様性や豊かさに対して関心を抱き、個人的な前提や、イデオロギーの底流にある前提について自覚的になる。
4. 自分の信念や前提を批判的に振り返り、より思慮深く、責任意識と目的意識に満ちた人生を送れるようにする。
5. 知識には責任が伴い、知ることによって社会への参加と行動の義務が生じることを理解する。

「知るための方法」の「言語」の解説文（抜粋）

言語

言語はどのように知識を形成するのか。ある「知識の領域」における言語の重要性によって、その領域が特定の文化に縛られることはあるのか。知識の構築に際して、比喩はどのように用いられるか。

言語とは、人間が学習し複雑な意思疎通の体系を使用するうえで、それを可能にする心的能力を指し、またはその体系そのものを指すこともあります。言語は、「記号」の体系によって構成されています。意思を疎通する、考えを説明する、知識を蓄積する、あるいは思考の媒介とする目的で、一定の規則に則してまとめあげられた合意済みの慣習的な意味が、これにより伝えられます。……（後略）

出典：ディプロマプログラム（DP）「知の論理」（TOK）指導の手引き（非営利教育財団国際/パカロレア機構）

思考習慣を身につける TOKにおける指導と学習

カメダクインシー

玉川大学学術研究所K-16 一貫教育研究センター講師
前玉川学園中学部・高等部教諭



2009年に国際バカロレア（IB）ワールドスクールとして正式な認定を受けて以降、玉川学園では教科のカリキュラム構築やIBプログラムの実践に取り組んできました。ディプロマプログラム（DP）では、IBの学習者像である「探究する人」「知識のある人」「考える人」「コミュニ

ケーションができる人」「信念をもつ人」「心を開く人」「思いやりのある人」「挑戦する人」「バランスのとれた人」「振り返りができる人」の育成をめざし、「知の論理」（TOK: theory of knowledge）などをコアとした実践手段を導入しています。

TOKは、「知る」ためのプロセス

を探究し、批判的に考える力を養う授業で、DPを履修する生徒全員が最低100時間以上取り組むことになっています。TOKでは、「私たちは知っているということ」をどのようにして知なのか（How do we know what we know?）をさまざまな文脈で考察していきます。教師は、ただ生

して生徒が当事者性を持つ「T」を主語にする課題」がどのコースでも好評です。

最近のものの中から、高校生が自分の進路について真剣に考え始める2年生3学期に行った、「ALTとのインタビューで自分の将来設計を英語で述べ、質問に答える」というパフォーマンス課題（細野教諭との協同実践）を紹介しましょう。事前の授業で、生徒は自分が表現したい内容に対して必要な英語表現を考え、わからなければ教員に質問し、60〜70ワード程度の英語で自分の将来設計を書きます。そして、ALTとの

英語インタビューで語り、質問に応じるのです。以下に紹介するのは基礎コースで学ぶCくんのケースです。彼は中学時代から英語に大変な苦労をしてきたらしいのですが、本校英語科が独自に行っている語順理解に特化した学び直しと、英文を前から順に理解して読む直読方式の読み取りで、少しずつ英語を理解できるようになってきていました。

Cくんはメモ（右図）を手にALTの先生とのインタビューに臨み、「Why do you like to work in Kyoto city?」と尋ねられて、「Because I like the city.」と答えるなど、意欲的に応答

していました。インタビュー直後の彼の晴れ晴れとした表情からは、「自分の発話がきちんと聴きとられ、それをもとにして応答できた」という成功感・満足感が見てとれましたし、その後の英語学習でのCくんのスツと伸びた背中が彼の変化を物語っていました。「うーん、なんか突然オーブンしたんすよ」ということば通り、彼のなかでドラスティックな変化が起きたようでした。「自ら思考判断し、意見を発信する力」を育てる授業には、発信への意欲を持てる言語活動と、その活動に取り組める力を育てる教科指導が必要ですが、その両輪

がうまくかみ合うとき、生徒は発信する行為を通じて当の教科力を自ら高めていくのだということをCくんの例が物語っています。

私たちはさらに、生徒たちに世界の動きに関心を持ち常に自分の意見を持つてほしいと願って、英語メディアから直近のニュースを教材化することに取り組んでいます。英語の得意不得意にかかわらず、すべての生徒にとって英語による意見の発信は可能です。「T」が主人公の発話が「think」……という意見表明を含む自己表現になれるよう、今後とも実践を重ねていきたいと思っています。

C君が書いた将来設計のメモ

"My name is *****, I'm good at playing volleyball. My favorite things are playing volleyball and read books. I want to work after I graduate from this high school. I want to be independent from my parents. I want to work in Kyoto City. To make my dream come true, I study very hard in school."

（高校2年生3学期2月。原文ママ）

徒に「教える」のではなく、生徒がすでに持っている多くの経験や知識をもとに、個人はどのようにして物事を知るようになるのか（個人的な知識）、そして社会はどのようにして知識に到達するのか（共有された知識）について考え、その考えを生徒間で共有することができる学習環境を維持していかねばなりません。

私が行った授業の一つに、「知るための方法」を考察するものがあります。TOKは、複雑な世界を探索するのに役立つツールである「知るための方法」として、言語、知覚、感情、理性、想像、信仰、直感、記憶の八つを設定していて、そのうちの四つを深く考察するのが適切であるとされています。私は、言語、知覚、感情、理性を取り上げ、ジグソー法（協同学習の技法）を使って、生徒が複数の話題を同時に学んだり、教えたり、議論したりすることで、学習を深め、視野を広げる活動を効率的に行えるようにしました。

まず、生徒たちを4人のグループ（ホームグループ）に分けます。次に各グループのメンバーに1〜4の番号を振り、1は言語、2は知覚、3は感情、4は理性といったように4つの専門グループに振り分けます。

「思考習慣」とは、与えられた課題や問題の答えを知らないときに「知的にふるまうすべを知っていること」

次に、専門グループごとに集まり、

自分たちが担当する「知るための方法」はどういうものなのか、TOKの解説文を手がかりに、自分の経験を関連づけたりしながら分析し、考察を深めます。さらに、その「知るための方法」をどうやってたらほかの人たちにはわかりやすく説明できるか考えます。その後、それぞれのホームグループに戻り、専門グループで話し

識していました。

TOKのあるべき方向性について理解していても、探究の進め方や指導の方法、教師と生徒の関わり方など、現実とのバランスをとるのは容易ではありません。試行錯誤の連続でしたが、「生徒の意欲を引き出す魅力ある学習環境」を創り上げるための多くのアイデアを得る貴重な経験となりました。

授業が進むにつれ、生徒たちも少しずつ変化していきます。最初は「TOKの目的がよくわからない。つらい」と悩んでいたような生徒が、私の教科の授業で、「先生の説明のこの部分は間違っていると思う」とい

合ってまとめた内容を教え合います。私は教室を回り、生徒が与えられた資料や自分の経験などを根拠に挙げながら、筋道の立った説明をしているか確認します。生徒から質問があれば対応し、説明の根拠が不明瞭な場合などは再考を促すような質問をしたりします。

次に、「四つの『知るための方法』のうち、一つ除外しなければならないとしたらどれを選ぶか」「そもそも人間はどれか一つを欠いても存在し得るのか」についてホームグループで議論します。議論は、自分の専門グループで考察した「知るための方法」がいかに重要であるかを主張しながら進められます。この授業を通じて、生徒たちは、「知るための方法」がそれぞれ独立しているのではなく、さまざまに相互作用しているのだということに気づきます。

問いを柱とした探究

TOKは、一般的なシラバスに多く見られる、内容や課題などが事前に表示された上で進められる授業ではありません。いく通りもの答えのある「開かれた問い」を柱に、複数の教科の領域を横断して進められます。

TOKと他教科との違いは、生徒に求められるメタ認知スキルのレベルの違いにあるといえるでしょう。物理や音楽など教科の授業では、教科の概念的理解を深めるために教科に関する知識やスキルを学習します。一方、TOKの授業では、教科固有の知識獲得の方法、知識が果たす役割、身につける方法やスキル、知識そのものの本質などの探究に焦点が当てられます。「知識がどのようにして確立されるにいったったか」に着目しつつ、知識の異なる領域について比較や検証を重ねていくことで、知識の本質や共通する点、異なる点が明らかとなり、私たちが世界を知る上で多種多様な知識がどのような助けとなっているのかを知ることができると。

教師には、生徒一人ひとりの探究を慎重に見守りつつ、適切な方向に進んでいけるよう導く役割が求められます。TOKの授業で重視される「問いかけ」では、生徒の好奇心を刺激し、望ましい方向へと導いていくような意義の高い良い質問とは何かを常に考えていかねばなりません。探究は、最終的には生徒自らが生み出した問いによって支えられるものとなっていくことが重要です。この

を与えるものであると改めて感じました。「思考習慣」とは、与えられた課題や問題を前にして、その答えを知らないときに「知的にふるまうすべを知っていること」と定義されるものです。「思考習慣」をつけることはメタ認知スキルや批判的に考える力の習得にもつながっていきます。

長い学習期間を通して身につけた「思考習慣」は、広い世界のさまざまな場所で活躍していく生徒たちにとって大きな助けとなるはずです。責任ある「地球市民」となっていく生徒たちがこの思考習慣を、これからの人生に生かしていくてくれることを強く望んでいます。

※ IBディプロマプログラム (DP)

16-19歳の大学入学前の生徒を対象にした2年間の教育プログラム。言語と文学 (母国語)、言語習得 (外国語)、個人と社会、理科、数学、芸術の6つのグループ (教科) と、「知の理論」「創造性・活動・奉仕」「課題論文」の3つのコアで構成される。修了時に卒業試験を受けて一定の成績を収めると、国際バカロレア資格 (国際的に認められる大学入学資格) の取得が可能になる。

〈参考資料〉

『Theory of Knowledge Skills and Practice / 知の理論スキルと実践 (日本語訳付き版)』(オックスフォード大学出版局、2015年)

非営利教育財団国際バカロレア機構 (www.ibo.org) 発行の和文資料

● 国際バカロレア (IB) の教育とは
http://www.ibo.org/globalassets/digital-tookit/brochures/what-is-an-ib-education-jp.pdf

● ディプロマプログラム「知の理論」(TOK) 指導の手引き
http://www.ibo.org/contentassets/93f68f8b322141c9b113fb3e3fe11659/tok-guide-jp.pdf

● ディプロマプログラム「知の理論」(TOK) 教師用参考資料
http://www.ibo.org/globalassets/publications/tok-tsm-jp.pdf

教師研修

21世紀に必要な資質・能力を育てる

小中高校大学の教員を対象に、情報化、グローバル化が急速に進む社会の変化が教育にどのような影響をもたらしているのか具体例をもとに考察するレクチャーを実施しました。あわせて開催したワークショップでは、参加者は新しく求められるようになった資質・能力を育成するための評価の理論を学び、パフォーマンス評価やオーセンティック評価のデザインに取り組みました。教育委員会や教育センターでの教員研修のほか、高校生向けの講演にも協力しています。

テストを変えることが教育を変える近道

カリフォルニア大学サンディエゴ校教授
當作靖彦



38年前にアメリカに渡り、大学で日本語教育に携わりながら、日本の教育の動向を見てきた。私が渡米したときに味わった苦労は、日本の教育が自立性を育てるものではなかったことに起因している。そして、その教育の状況は今もあまり変わっていない。自立した学習者でなければ、グローバル化がますます進む21世紀を生き抜くことは難しい。

教育が変わるには時間がかかるが、評価つまりテストを変えることが教育を変える近道となる。2013年から毎年、TJFの研修の講師を務

てきた。講演後、私のところにやってきた生徒たちと話をしたが、みんな真摯に自分の人生を模索していることがわかった。彼らの個性や能力を最大限伸ばせるような教育環境、社会環境をつくっていかねければならない。その点で私たち教育者をはじめ大人の責任は重い。

【事業データ】

レクチャー「グローバル時代のキャリア形成、ライフデザインにつながる教育」・ワークショップ「学習を促進する評価のデザイン」

期日：5/29(金)、場所：東京、主催：TJF、参加者：小中高校大学の教員約90名

レクチャー「グローバル時代の社会とつながる教育」・ワークショップ「学習を促進する評価のデザイン」：パフォーマンス評価とポートフォリオ評価を中心に」

期日：10/18(日)、場所：大阪、主催：国際教育活動ネットワーク REX-NET、TJF、参加者：小中高校大学の教員約100名

レクチャー「評価のパラダイムシフト：学習結果を見るテストから学習を促進するテストへ」・ワークショップ「言語教育におけるパフォーマンス評価：その効果的なデザインと実施方法」

期日：11/5(木)、場所：沖縄、主催：沖縄県教育委員会、共催：TJF、参加者：沖縄県立高校の外国語、国語担当教員約150名

レクチャー「グローバル時代の社会とつながる教育」・ワークショップ「学習を促進する評価のデザイン」：パフォーマンス評価とポートフォリオ評価を中心に」

期日：11/7(土)、場所：北海道、主催：北海道大学国際本部留学生センター、TJF、協力：高等学校中国語教育研究会北海道支部、国際教育活動ネットワーク REX-NET、実用英語教育学会(SPELT)、北海道高等学校英語教育研究会、参加者：小中高校大学の教員約70名

上記のほか、沖縄県高等学校長協会主催の講演、大阪府教育センター主催の講演、沖縄県立向陽高等学校主催の生徒向け講演などに協力した。

生徒の学びに役立つ評価を考えるチャンス

稲毛知子

北海道札幌旭丘高等学校教諭

21世紀を生きるうえで必要とされる課題解決力を育てる学習は、生徒全員が同じペースで、提示された知識を吸収する学習とは一線を画しています。生徒一人ひとりの「何ができる、どのくらいできる」が

違うため、生徒が目標に到達できたかを測る物差しが適切かどうか、教師はいつも自分に問いかける必要があります。もつとえば、学習する目的や目的達成のために網羅すべき項目、またどういうアプローチが必要なのかという青写真を、生徒が必要があります。この青写真こそルーブリックであり、規準(項目: criteria「何ができる」を具体的に示したもの)と基準(段階: standards「どのくらいできる」を明示した指標)を示してくれるものです。目標(goals)と自分との距離がどのくらいあるかを把握し、どのようにそれを縮めていくべきなのかを考えて、自分の学びに責任をもつきっかけを与えてくれます。

知識の暗記に終始するだけではだ

めだと頭ではわかっていても、暗記する以外(以上)に何があるのか、生徒ばかりでなく、教師もわかっていないかもしれません。しかし、ルーブリックをつくることで、学習目標や学習内容が具体的にになり、学習活動を組み立てやすくなるだけでなく、生徒それぞれの課題がどこにあるか明確にすることが出来ます。

當作先生のワークショップでは、この、どう教えるべきか、どう評価すべきかを、協働で考え、形にするチャンスを得られます。2016年12月には本校を会場に研修が開催されます。より多くの北海道の教員が参加し、知恵を出し合う機会になることを期待しています。

これからの社会を知り、将来を考えてほしい

半嶺通男

沖縄県立向陽高等学校校長

2015年に講演「グローバル時代の教育の役割」を初めて聴きました。急速に情報化が進んでいることは認識していましたが、人工知能の発達やビッグデータの活用が私たちの生活をどのように変えつ

つあるか、講演で示された事例は私の想像を超えるものでした。本校の生徒たちは、比較的にびりして



て、進路も県内志向が強い傾向にあります。それは悪いことではないのですが、自分たちが生きていく社会について知識を得たうえで、将来を考えていくことが必要だと思っています。そして、地元でも、国際社会でも、どういう場所に身を置いたとしても、自分の力を発揮して周りを引っ張っていくような人になってほしいと考えています。

そこで、本校国際文科コースの1年生80人と教職員を対象に當作先生に講演をお願いしました。「自分がやりたい仕事はこれからコンピューターがやるようになるかもしれないと知ってショックだったが、その分今は存在しない仕事が出てくると聞いて少し安心した」「受動的に生きるのではなく、創造力、想像力をもって生きたいと思った」など生徒の反響

も大きく、今年は2、3年生を対象に講演をお願いすることにしました。

現場が抱える課題の解決に向けて

上原信

沖縄県教育庁県立学校教育課
普通教育班指導主事

沖縄 縄県教育委員会では2012年から毎年、當作先生の研修を実施しており、昨年はすべての県立高校から外国語と国語の教員が参加しました。学校現場には、パフォーマンス評価の重要性はわかるが実際にどうやったらいいのかわからない、評価の基準があいまいになってしまいうのではないかという疑問や不安の声が多くあります。パフォーマンスを評価するためのルーブリックについて学べる當作先生の研修は、現場の抱える課題に合致したものでした。参加教師からは、ルーブリックをつくることで明確な基準をもてるので自信をもってパフォーマンス評価に取り組める、生徒の状況に合わせて評価の観点を定めることができる、ほかの教員と評価基準を共有できるなどの反応がありました。



日韓の中高生交流

伝わること、伝わらないこと

4回目を迎えた「SEOULでダンス・ダンス・ダンス」。日韓の中高生35名が6グループに分かれ、寝食をともにしながらダンスをつくりあげました。いっしょに過ごす5日間は楽しいだけではありません。自分の気持ちに通じずもどかしい思いをしたり、ときにはぶつかりあうこともあります。最終日のダンスの発表後にうれし涙を流した、なつさんのグループもそうでした。



なつ

ダンスを大成功させよう!



チーム名を唯一無二(唯一無二)に決定

日本語を使って
いっぱい交流しよう!



ヒョンギョ



◀動画はこちらから

2日目 (8/11) 終日、ダンスの練習

なつさんが踊って、
みんなに伝える

この振りはどう思う?っ
て聞いても何も言ってく
れない。でも不満そう。

ダンスを完成させなきゃ
いけないのに、しゃべって
ばかり。もう一人は疲れ
たのか寝ちゃっている。
どうして?

曲を替えたらま
た最初からだか
ら、それはムリ。

難しいから曲を替えようと
韓国の子たちが言い始めた

もっと言いたいこと
を話せばいいのに。
はっきり言わない
からどうしていいの
かわからない。

努力してるけどなかなか
できないから、だんだん
やる気がなくなるよ。



めんどくさいと
か、やめたいと
か陰で言ってる
の、わかってる
んだよ。韓国語
ができなければ
よかった。

3日目 (8/12) ダンスの仕上げ と胸キュン対決^{*} の買いもの

なつさんのグル
ープでは男子が
女装、女子が男
装をすることにな
った

女装できっと
盛り上がる!

なんで!? 洋服まで
買ったじゃん。前日
になってダメって何で?

ひとりが女装
をやらないと
言い出した

胸キュン対決
のポスター作
成に1人が懲
りだす

なつさんが涙

先生が通訳に
なって双方の
意見を聞く

発表 (8/13)

一緒に乗り越えた
気がする!

なぜ私の意見に
ばかり反対するの?

たまっていたのが
爆発しちゃった。

えっ?
何で泣くの?

「何でやらないの?」っ
て言われてびっくり。
女装はやだって言った
つもりだったのに。

女装するのは
いやだよ。
やらないよ。



そんなつもりは
なかった。もっと
早く言ってくれれ
ばよかったのに。
謝らなきゃ。

もっと
頑張ろう。

やっと終わって
晴れやか!
それにみんなで
つくった舞台だ
から嬉しい!

プログラムを終えて

なつ

以前は韓国が「好き好き」
だけだった。今回、嫌なと
ころが見えてきたとき、知
りたくなかったと最初思っ
た。でも、いいところと悪
いところが見えてきて初め
て、日本人とか韓国人と
かではなくて、「人」として向
き合えたように思う。



ヒョンギョ

韓国の友だちだったら、
その場ですぐに「いやだ」と
か「ちがう」とか言うけど、
日本の友だちは相手に悪い
と思って言わないことが多
い。それがわかったから、
相手のことが理解できるよ
うになった。何人かとは今
もLINEでつながってる。

【事業データ】

日韓のこばを学ぶ中高生交流プログラム2015「SEOULでダンス・ダンス・ダンス」

期間: 8/10(月)~14(金)、場所: 韓国・ソウル、主催: (財) 秀林文化財団、TJF、助成: (公財) 双日国際交流財団、(公財) 日韓文化交流基金、協力: 韓国日本語教育研究会、
高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク(JAKEHS)、国際交流基金ソウル日本文化センター、秀林外語専門学校、輸送協力: ANA、参加者: 韓国語を学ぶ日本の中高生18
名と日本語を学ぶ韓国の中高生17名

隣語講座

隣語を学ぶきっかけ、続ける理由

中高生に隣語を学び始めた動機を聞くと、「親が好きだったから」「親に勧められたから」という回答をよく聞きます。より多くの中高生に隣語を学んでもらうために、保護者にも働きかけて、さまざまな言語と文化にふれてもらう場をつくりました。さらに今年初の試みとして、中高生が隣語を学ぶだけでなく、その隣語を高校生のときに学んでいた先輩大学生と交流する機会も設けました。

世界の言語
と文化を
知ろう！

ことばや文化にふれること

小出麻紀

東京都立杉並総合高等学校PTA会長

杉並総合高校には国際交流関係の行事がたくさんあり、PTAとしてできるだけの協力をしています。若林校長からもいろいろとアイデアが出てきます。国際文化フォーラムと東京都総合学科教育研究会の共催で始まった「世界のことばと文化を知ろう」シリーズもそのひとつです。メディアを通して知るだけでなく、

実際にことばや文化にふれてみようというものです。こうした機会をつくることはとても重要です。

私自身、こんな体験をしたことがあります。子どもが幼いときに通っていた体操教室に、韓国のお子さんが入ってきました。お母さんは電子辞書を片手に積極的にコミュニケーションをとってきて、それがきっかけで家族ぐるみの付き合いになりました。そのお母さんの故郷である済州島を訪ねたときには、親戚の方たちからも歓待をうけました。それまで何となくもっていた韓国へのイメージは大きく変わったのです。

今回の講座は、ただ一方的に聴くだけでなく、保護者、生徒、先生が同じテーブルで、隣国のことばを学ぶ意味やこれからのことなどについて

て自由に意見交換をしました。ほかのPTA役員たちからも、参加型がよかった、また同じようなことがあったら参加したいという声があがりました。

いま、PTAではサークル活動をいくつか進めています。今回の講座をきっかけに今後、韓国語や中国語を学ぶサークルができたらいいなと思うようになりました。



「誕生日に食べるものは何でしょう？」など講師から出されたクイズの答えをグループで相談。計10問のクイズが出されるたびに盛り上がった。

【事業データ】

世界の言語と文化を知ろう！ 第1回：世界の韓流と日本の韓流——韓国を知ろう！
日時：6/20(土)、場所：東京都立杉並総合高等学校、主催：東京都高等学校総合学科教育研究会、共催：TJF、協力：東京韓国教育院、東京都立杉並総合高等学校PTA、講師：阪堂千津子(東京外国語大学非常勤講師)、参加者：58名(高校生、保護者、教員)

b-lab
x
TJF
韓国語講座

やってみればいいんだ

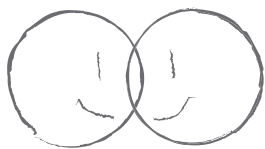
堀川智聡

国士舘大学2年

「自分の経験を紙芝居にして中高生に話をしてほしい」と頼まれたとき、最初は断ろうと思いましたが、人見知りで、初めて会う人とのコミュニケーションが苦手なのです。でも、2014年に参加したTJF主催の交流プログラム「SEOULダンス・ダンス・ダンス」の経験を思い出して、

中高生に伝えたいことが湧き上がってきました。それは「自分から相手の心に歩み寄ること。ダンス・ダンス・ダンスでは、日韓の中高生36人がグループにわかれてK-POPダンスを踊るのですが、私のグループは相手のことばをしゃべれる子がいなくて、私が通訳の役を務めました。でも、細かなところまでは伝えきれなくて、コミュニケーションがまったくうまくいきませんでした。韓国の子が陰で悪口を言っていたことをプログラム後に聞いてすごくショックでした。でもそれ以上に、なぜそういうことになったのかその子の本心を聞きたいと思って、すぐに力カオトークでメッセージを送りました。すごく気の強い子だったので無視されるかと

思ったのですが、「仲良くなりたいのにことばの壁があつてできなかった、でも楽しかった」と返ってきました。私と同じ気持ちだったことがわかって、すごく嬉しかったです。そして中高生に伝えるために、自分の気持ちを振り返って整理するなかで気づきました。やってみなきゃわからない、やってみればいいんだって。中高生にちゃんと伝わったかどうか不安もありますが、すごくいい経験になりました。



【事業データ】

b-lab x TJF 隣語講座2015 韓国語
日時：9/20(日)、場所：文京区青少年プラザb-lab、主催：文京区青少年プラザb-lab、TJF、講師：張河林(東京大学大学院)、参加者：中高生8名

b-lab x TJF 隣語講座2015 中国語
日時：2016/2/21(日)、場所：文京区青少年プラザb-lab、主催：文京区青少年プラザb-lab、TJF、講師：張明(東京大学大学院)、参加者：中高生9名



紙芝居を使って自分の体験について話す堀川さん。



参加者の名前がハングルで書かれた風船を見ながら、グループでハングルの表をうめていった。

参加した中高生の声

「韓国語を勉強して、こんなことができるようになるんだってわかっておもしろかった」

「ゲームで学べたので、中国語が身近に感じられた」

「交流プログラムに参加した先輩の話聞いて、ことばの壁を理由にしないで言いたいことをはっきり言うことが大切だとわかった」

b-lab
x
TJF
中国語講座



中国語講座で自分の経験を紙芝居にして語る大学生。

参加した親子の声

- 私はメーカーに勤めているのですが、アジアはとても大事な地域です。しかし、子どもがアジアのことにふれたり、考えたりする機会がありません。この講座は、子どもがアジアについて知るいいきっかけになったと思います。
- 親の勧めでこの講座に参加しました。今まで知らなかったことばや文化について知ることができて楽しいです。

「伝えたいこと」を考えぬく

2015年度に2校でCMワークショップを実施しました。その1校、田園調布学園では、「オルセースクールミュージアム」(OSM)を実施するにあたり、生徒がその魅力を伝えるCMをつくることになりました。電通のCMプランナー、近藤祐見さんが講師を務める全3回のワークショップを開催。制作したCMは学校のホームページに掲載されました。

※フランス国立オルセー美術館公認のリマスターアートを学校に展示する取り組み。田園調布学園(東京)では、創立90周年行事の一つとして行われた。

伝えたいことを掘りさげるプロセスを体験させたい

田園調布学園中等部・高等部 図書館司書 野村愛子

私は学校図書館の司書として、生徒自身が疑問に思ったことを調べて、わかったことをほかの人に発表するというような探究学習を支援しています。そのなかで、「発表する」「他者に伝える」ということは、聴衆を意識すること以上に、自身の「伝えたいこと」が重要なのではないだろうか、と書いていました。調べてまとめるだけでは、どうしても表面的な意見表明にとどまりがちです。調べて思

考したことを、いかに自身のことばにするか、この掘りさげるプロセスが足りないような気がしていたのです。

そのような折に、TJFの「小中高校教育関係者向けCMづくりワークショップ」に参加し、「これだ!」と得心がきました。つまり、本気で何かを伝えようと思うのであれば、自身の「伝えたいこと」に向き合い、とことん考えぬく作業が必要であるということでした。そのことをシンプルに、そしてわかりやすく体験できたのがCMワークショップでした。本校でのCMワークショップは、有志の生徒を対象に行いました。そのため、学年の上下関係なく関わり

合う必要があること、CMのコンテンツとなる企画自体もみんな初めての体験となること、という二重の困難さがあり、不安もありました。生徒たちはかなり苦戦した様子がかうかがわれました。正解のない問いに対して、自信がもてなかったり、自分の考えがうまく相手に伝わらないもどかしさを感じたり、そもそも何を伝えるべきかを悩んだり……。

しかし、このようなハードルが多くあるからこそ充実感もあったようです。本質を追求し、思索し、そして言葉にする、その難しさと必要性を全員が体感した濃密な時間となりました。

完成した作品例



「見てみませんか? アートで一度むけた自分」

▶田園調布学園を少しでも知っている人に、「OSM@田園調布学園」で、自分もアートを通して変われる!ということを知ってもらおうCM



アート初心者による。アート初心者のための、スクールミュージアム。

「アート初心者によるアート初心者のためのミュージアム」

▶アートに興味がない人に、アートに興味をもってもらい、他の美術館にも行きたくってもらうCM



ワークショップの流れ

第1回 (12月22日)

どんなCMをつくりたい?

- 1. CMづくりの過程を説明**
CMプランナーは、CMの目的(視た人の行動変容を促す)を達成するために「何を伝えるか=What to say」「どう伝えるか=How to say」を考える。
- 2. CMを見て気づくワーク**
TVやウェブで流れているCMをいくつか見て、「いちばん伝えたいことは何か」「それを伝えるためにどんな工夫をしているか」を分析し、全体で共有。

生徒のコメント

インパクトも必要だが、伝えたいことは何かが一番大事

CMは意図があってつくられていて、「おもしろい」と思った時点でその企業の戦略にかかっているということでもある

- 3. 「OSM@田園調布学園」の魅力**
ペアで話し合ったあと、グループでワークシートに書き出しながら共有。

- 4. 次回に向けて**
「OSMについていろいろな情報を集めておこう。自分が行きたいと思う美術展やイベントは、何をウリにして、どんなことばで伝えているのかを考えてみよう」と呼びかける。

毎回、最後に、個人で振り返りシートに書き込んだ後に、全体で一言ずつ共有した。

第2回 (1月7日)

一行コピーと企画をつくろう

- 1. CMの目的を決める**
「どんな人(ターゲット)」に「どうなってもらう(目的)」ために「何を伝えるか=What to say」「どう伝えるか=How to say」を考える。他グループからは感想や質問。最後に、講師・近藤さんから講評をもらう。
- 2. 「OSM@田園調布学園」の魅力をつくる**
1) 「受け手」と「伝え手」の2つの立場から魅力を考える(個人)。
2) いいところ、特徴を、たくさん書き出す(個人)→グループで共有。
3) CMで「いちばん伝えたいこと」を一つに絞る(グループ)。
4) 「いちばん伝えたいこと」の特徴・魅力についていろいろな角度から考えて深める(以下、グループ)。
5) 「いちばん伝えたいこと」の魅力を一つの文章にしてみる。
6) 文章をもとに、一行コピーをつくる
7) 一行コピーを核にしながら絵(写真、動画)とことばの流れを考えて企画コンテを作成する。

思いっぴり限りの情報をしぼり出してみることが大事

何をどう伝えるか、誰に伝えるのかなど、絞りにむかえば思いっぴりハードだった

3人いれば3人それぞれの考えや思いっぴりがあっておもしろかった

自分のなかで「何となくイメージができていても、ことばで人に伝えるのが難しくてモヤモヤした

脳みそこげそう

3. 映像制作の流れと著作権や肖像権などの留意点について説明

課外 各グループで映像制作

(windows movie makerやPowerPointなどを使用)

第3回 (2月20日)

上映会

各グループの作品上映後、目的や企画意図、苦労したことなどを発表。他グループからは感想や質問。最後に、講師・近藤さんから講評をもらう。

ストーリー性を重視するCMと、美術館の魅力を伝えるCMに分かれていた。前者は見る人にとっていかにおもしろいストーリーかが大事で、後者はOSMに来るとどんなメリットがあるかを示すことが重要だと思った

伝えたいことと同じでも、ほんの少し意見が違っただけでまとまらなかったりした。でもそれぞれCMづくりの楽しさで、みんなでコマ単位で考えていくのがおもしろかった

考えたことを形にするのは案外でできる。考えるまでが大変だし、大事

自分がいいと思って相手にも相手に伝わるように。客観的にみることも、ほかの人に意見をもらうのが大事

人になにかを伝えるのはCMだけではないので、「ターゲットを決める」核がぶれないようにするということもふだんから意識してやっていきたい

今までCMの制作について、誰がどんなふうにつくっているのかまったく知らなかった。ワークショップが知らない世界をのぞきかけになった

【事業データ】

【生徒向け】

「オルセースクールミュージアム@田園調布学園」の魅力伝えるCMをつくる
期日: 12/22(火)、1/7(木)、2/20(土)、参加者: 田園調布学園中等部・高等部のプランナー(企画委員)の中学生16人、教員8人、内容: 創立90周年記念行事の一つとして田園調布学園が実施したフランス国立オルセー美術館公認のリマスターアートを学校に展示する「オルセースクールミュージアム」の開催に向けて、その魅力を伝えるCMをつくって学校のホームページに掲載。

東南アジア圏から観光客を呼び込むために滝川市の魅力を伝えるCMをつくる
期間: 12/11(金)~12(土)、参加者: 北海道滝川西高等学校情報ビジネス科の

3年生80人、内容: 文部科学省指定スーパーグローバルハイスクール(SGH)・アソシエイト校として取り組んでいる課題研究「インパウンドをターゲットとした観光プランづくり」の一環として実施。ワークショップで制作した日本語のCMをもとに英語版も制作し、課題研究発表会と滝川国際交流協会が主催する「国際田園都市」TAKIKAWAの20年後」プレゼンテーションコンテストで発表。

【教師向け】

「私の授業」のCMをつくろう(2日間コース)

期日: 第1回: 7/18(土)、19(日)、第2回: 2016/1/31(日)、2/28(日)、場所: 東京・TJF、参加者: 第1回10名、第2回12名

12月

バディとの交流

16日
(水)

午前：山下公園など散策
午後：みなと総合高校のバディと顔合わせ

17日
(木)

バディと授業参加、放課後活動



日本の高校生活はストレスが少ないと聞いていたが、日本の高校生も勉強が難しかったり、いろいろ苦労していることがわかった。



休み時間に、バディに中国語を教える

ずっと日本語で話してくれていた。中国語を話せないことが申し訳なかった。中国語の勉強をがんばる！



学食でランチ

相手に伝える努力をたくさんできたことで少し自信がついた。



放課後、街に出かける

放課後、バディたちといっしょに遊びに出かけたとき、距離が近くなったと感じた。

18日
(金)

バディと授業参加、放課後活動、振り返り、歓送会



歓送会で、パフォーマンスを披露

19日
(土)

バディと観光、ホームビジット

日中の高校生交流 いっしょに 過ごした 4日間

日本語を学ぶ中国の高校生と日本の高校生の「りんごの交流」を行いました。今回受け入れてくれた横浜市立みなと総合高校には、国際交流に関心のある生徒たちが登録して活動するバディ制度があります。

4日間、バディの生徒たちが中国の生徒とペアになって学校生活をエスコート。中国の生徒たちは、英語や歴史、体育、家庭科など、バディと同じ授業に参加したり、放課後や休日は、バディと観光に出かけたり、ホームビジットをしたりと、日本滞在のほとんどをいっしょに過ごしました。

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

● 日本では他人がよくしてくれたら必ずお礼を言う。毎日耳に入ってくる「ありがとう」は数えきれない。でも、あやまっていることもしょっちゅうで反応に少し困った。礼儀を重んじるのだろうが、窮屈に感じるときもあった。

● 自分が大きく変わったのは人との接し方で、素直にお礼とお詫びを言うようになった。これは日本人のいいところだと思う。慣れればそんなに大変ではないし、トラブルも避けられる。

◆ ふだんに比べて圧倒的にジェスチャーを使うことが増えたと、ゆっくりはっきり話すようにした。日本語を知らない中国の人とも交流してみたい。

【事業データ】

日中の高校生交流プログラム「りんごの交流」
期間：12/15(火)～20(日)、場所：神奈川県、主催：中国中等日本語課程設置校工作研究会、TJF、助成：漢語橋基金、(公財)三菱UFJ国際財団、輸送協力：ANA、参加者：中国中等日本語課程設置校工作研究会のメンバー校の生徒18名、みなと総合高校の生徒

● 中国の高校生

◆ 日本の高校生

なぜ

CMづくりワークショップをするのか

これまで、国際交流や外国語の授業などで、「伝えるために何かをつくる」発信型の活動を試みてきました。しかし、発表にいたるまでのプロセスが深められないまま、「なんとなくつくって、なんとなく発表」するだけに終わってしまうことも少なくありませんでした。外国語の授業で学んだ語彙・表現を使い、スキットやプレゼンテーションをつくって発表したり、探究学習などで調べたことを映像などにまとめてウェブサイトに掲載するといった発信型の活動は、さまざまな教室で行われていますが、同じような課題を抱えているケースもあるようです。こうした課題を踏まえ、「伝えたい相手は誰なのか、何を伝えたいと考えているのか、相手に伝わるためにはどう表現したらいいか」を深く掘りさげるプロセスを、発信型の活動にしっかり位置づけたいと思い、CMづくりワークショップを始めました。

電通のCMプランナーでワークショップデザイナーでもある講師の近藤祐見さんには、授業や活動の趣旨に合わせて、毎回、内容と流れをアレンジしてもらっています。参加者がアイディアや表現を生み出せずに行きづまっているときに、「一つの方向性」に誘導することなく、状況に合わせてさりげなくヒントを出すことができるのは、「この先の進め方」を樹形図のように複数描けるプロならではの。

CMという手法のよさ

▶ "What to say"の追求に集中できる

CMは通常15～30秒で表現する媒体であるため、「What to say」(伝えたいこと)を一つに絞らざるを得ない。「本当に伝えたいことは何なのか」を徹底的に掘りさげ、さらに「一行コピー」として「伝わることば」に落とし込むプロセスを体験できる。

▶ こだわりを生む

表現時間が短いため一つひとつのカットが映像全体に大きな影響を与える。そのため、どういふことばや画像を選ぶか、どの順番で構成するかなど、作り手のこだわりを生みやすく、グループで制作する場合、それが真剣なディスカッションにつながるが多い。

▶ ゴールの形をイメージしやすい

日常生活でよく見聞きしていて完成形を何となくわかっているの、"What to say"を追求する過程で行きまったり、議論が脱線したりしても、最後までゴールを見失わずに取り組める。

▶ 伝える相手を意識できる

すべてのCMには、必ず、ターゲットと、その伝える相手にどのような行動の変容を起こしたいかという意図がある。「自分たちがおもしろい」だけでなく、「誰に、何を伝える」ために作るのかを意識することが常に求められる。

(担当：室中直美)

伝わるうれしさが原点

近藤祐見
電通CMプランナー

CMワークショップをやるようになって、自分がCMの企画制作のために身につけたスキルや経験というもの、単にCMをつくるためだけではなく、もっと広く、他者とのコミュニケーションに役立つものであるということに気がきました。

みなでCMづくりの過程をひとつずつ丁寧にやってみると、参加者

にさまざまな気づきが生まれます。「伝えたいことを絞るのは大切だと思った」「相手がどう受け取るのか想像しなくては」などなど。その気づきが、次の日からのことば選びや受け答えの変化につながり、コミュニケーションが良いものになっていくのではないかと思います。

参加の皆さんの「伝えたい」「伝わった」「うれしい」という純粋な気持ちにハッとすることも多く、自分自身、仕事の大切な原点に戻る気がします。

これまでの参加者の声

生徒

▶ 言いたことがありすぎて混乱することがよくある。伝えることを決めて、そこから逆算して表現していくCMの方法は、これからの人生に役に立つ。
▶ チームメイトとどの写真を使うかで意見が対立し、ものすごく時間がかかった。でも、妥協せずに話し合っって決めたので、納得できた。

教師

▶ 誰に何を伝えたいのかは国語でもよくやっているが、CMという短い時間で視覚に訴えるものだと、より深く考えることができる。
▶ 導き方が参考になる。(自分の授業をテーマにCMをつくることで)教師としての自分の使命、価値観を考える機会になった。



生徒向けワークショップは、先生方の要望があれば、TJFが学校に出向き行っています。TJFが主催する教師向けワークショップは、TJFのウェブサイトやメルマガ「わやわや」でご案内しています(「わやわや」は33ページ参照)。

人気の記事は？

「くりっくにっぽん」ウェブサイトをもっと多くの人に知ってもらうために、中国最大のSNSサービスの一つである微博（Weibo）に「点击日本」（Dianji Riben）を2015年8月に開設しました。また、日本語教師向けには、12月からメルマガ「Click Nippon News」を日英2言語で月2回の配信、韓国の日本語教師ネットワークJTA（Japanese Teachers Association）のウェブサイトでは、コンテンツを活用した授業案を紹介しています。



3 「巫女さんのアルバイト」 ▶ 1/365 コーナー

高校生レポーターがお正月に経験した巫女さんのアルバイトについてレポート。

4 「ソフトボールの関東大会」 ▶ 1/365 コーナー

ソフトボール部に入っている高校生レポーターが東京都代表で出場した大会の様子をレポート。

5 「聞こえなくなっても音楽は楽しめる！ —BRIGHT EYES super-duper」 ▶ My Way Your Way コーナー

メンバー4人のうち3人が聴覚障害をもつロックバンド。バンドを始めたきっかけや、身体全体での音楽の楽しみ方を語っています。



点击日本



くりっくにっぽん

5 人気記事ベスト (微博「点击日本」のアクセスの多い順)

1 「三人官女は三人姉妹？」 ▶ 1/365 コーナー

大学生レポーターが、幼いころのひな祭りの過ごし方を振り返りつつ、大学生になった今の過ごし方をレポートしています。



1/365 コーナーでは高校生、大学生レポーターが行事や記念日の過ごし方を紹介。

2 「妖怪から広がる世界—多田克己」 ▶ My Way Your Way コーナー

妖怪研究家の多田克己さんが、妖怪の魅力や日本になぜ妖怪が根づいたのかなどについて語っています。



My Way Your Wayではいろいろな分野で活躍する人のストーリーを紹介。

【事業データ】 くりっくにっぽんワークショップ

日時：11/7（土）、場所：フィリピン・マニラ、主催：国際交流基金マニラ日本文化センター、TJF、参加者：中等日本語教師22名
内容：「日本語の授業でのICTと生教材の活用」をテーマに、参加者は「くりっくにっぽん」のコンテンツを使った授業案を作成した。

日本語教育関連事業

中国に広がる『好朋友』

大連教育学院と共同で2005年から4年かけて刊行した第二外国語用日本語教材『好朋友』。2013年に市販化し、現在、15の省・市の中学校で使われています。2015年度は「好朋友」プロジェクト10周年記念として、『好朋友』を使っている日本語教師を対象に研修を実施。大連ほか10地域から計101名が集まりました。

日常生活に必要な表現を 楽しみながら学べる

江明周
福建省閩清職業中等專業学校

2010年に『好朋友』のことをTJFから送られてくる情報誌『ひだまり』で知り、すぐに出版元の外語教育与研究出版社から見本誌を取り寄せました。漫画やイラストがふんだんに使われていて、ひらがなも連想法の絵で学べるので、初めて日本語を学ぶ生徒たちにぴったりだと思いました。前年から第二外国語として日本語の授業がスタートしていました。市販化されると、早速自分の授業で使い始めました。

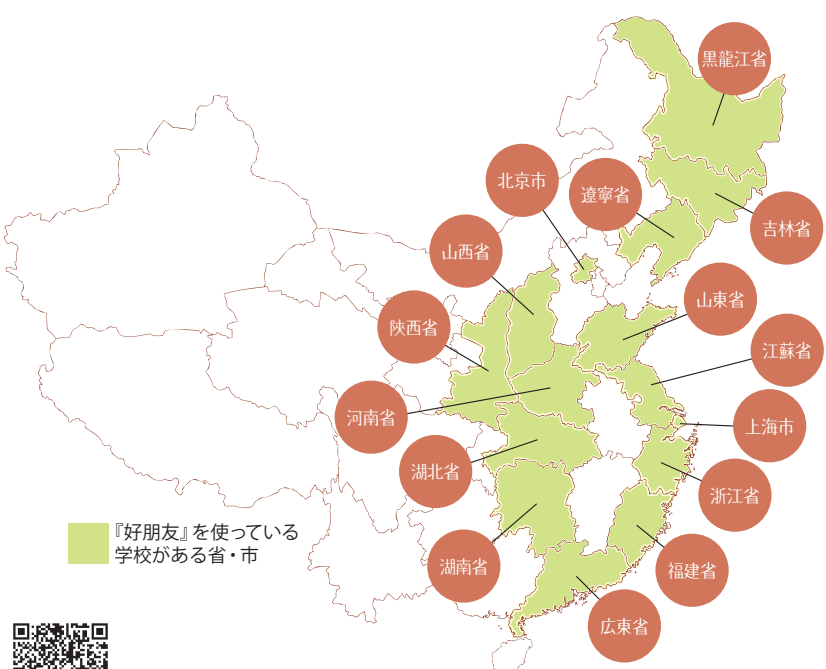
『好朋友』では学習活動が多く紹介されていますが、特に第2課の「ク

ラスメートに自分の名前を覚えてもらおう」という活動が大好きで、授業で何度もやりました。
2015年の研修には、飛行機とバスを乗り継いで、丸一日かけて参加しました。大連には、私が住んでいる福建省の田舎と違って先生がたくさんいてうらやましいです。先生方からいろいろな教え方を学ぶことができました。

ストーリー漫画が 学びたい気持ちを高める

欧晓鸞
広州外国語学校

私が日本語を教えている広東外国語学校は、中等日本語課程設置校工



『好朋友』を使っている
学校がある省・市



好朋友web

【事業データ】

好朋友日本語教師研修

【長沙研修】 期間：8/22（土）～23（日） 場所：中国・長沙市、主催：中国中等日本語設置校工作研究会、TJF、助成：（公財）東芝国際交流財団、（公財）三菱UFJ国際財団、参加者：30名、内容：『好朋友』などをテーマに、文化を捉える視点と日本語の授業における文化の扱い方を検討した。

【大連研修】 期日：10/31（土）、場所：中国・大連市、主催：大連教育学院、TJF、助成：（公財）三菱UFJ国際財団、参加者：101名、内容：『好朋友』が日本語教育で何をめざしているのかを考えるとともに、大連市で長年同教材を使っている教師の経験を他地域の教師と共有した。

作研究会の会員校です。研究会で『好朋友』のことを知って使い始めました。ストーリー漫画のセリフが生徒たちの日本語レベルにあっていること、ストーリー性があるので学習が継続しやすいことが魅力です。

私たちの学校は、ドイツ語やフランス語も開講しています。ほかの言語の先生は研修の機会が多いのに、

私にはなく、肩身の狭い思いをしていました。今回の研修でその思いが解消され、学校もさらに日本語教育に注目してくれました。これからもよりよい授業づくりに力をいれたいと思っています。

※ 日本語教育の質的向上と発展をめざし2010年に設立された民間組織。会員校は39校（2016年6月現在）。

来日した中国の校長たちの つぶやき



あちこちで感じた
細かな心遣いは日本の高
いレベルの科学技術に支えら
れていると思います。空港で入っ
たトイレは、暖かな色の電気に照
らされ、掃除が行き届いて清潔で
した。そして、人を察知して温か
くなる便座と、ばつの悪さを
消してくれる水の流れる
音には驚きました。



ピーク時には
女性専用車両がで
きることを知って、子
どもだけでなく女性の
権利と安全も重視して
いることがわかり
ました。



今回は電車で
移動することが多
かったのでふだんの
生活を知ることが
できました。

努力することをい
とわない人たちに感心しま
した。なかでも感動したのはタク
シーの運転手です。私たちが乗ると
きにドアを開け、乗り込んだら閉めて
くれ、そのあと私たちの荷物をトランク
に入れてくれました。ずっと謙虚な態度
で、だるそうな様子は一切見せず、運
転も慎重でした。その様子は75歳に
は全く見えませんでした。すぐに
怠けてしまう自分が恥ずかし
くなりました。

訪問した和光国
際高校では中国国
旗を掲揚して歓迎し
てくれて、とても
嬉しかった。



いちばん感慨深
かったのは日本人の安
全意識です。例えば、耐震
性の高い校舎、女性専用車両。
そしてホテルのタンスの隅に置
かれた懐中電灯。日本人の安
全意識がこんな細かなところ
にも現われていると思
い感激しました。



您好!

〔事業データ〕

隣語教育に取り組む日中の校長交流プログラム（招聘）

期間：12/15（火）～20日（日）、場所：東京、主催：中国中等日本語課程設置校工作研究会、TJF、助成：漢語橋基金、（公財）東華教育文化交流財団、（公財）三菱UFJ国際財団、輸送協力：ANA、参加者：中等日本語課程設置校工作研究会のメンバー校の管理職19名
※12/19（土）に、日中校長交流会を実施した。

交流のハードルが下がった

東京都立青梅総合高等学校校長 北川英一

国際交流をすると生徒たちがポー
ンと壁を越えるように大きく変わる
ということを前任校の東京都立若葉
総合高校で目の当たりにしてしまし
た。例えば、海外から帰ってきて「将
来は海外でこういう仕事をしたいと
思っている」と言う生徒がかなりの割
合で出てくるのです。国際交流の力
を感じていたときに、TJFの日韓
校長プログラムのことを知って、自

分自身が経験してみようと思い参加
しました。

大田で訪れた外国語学校では生徒
たちが私たち一人ひとりについて学
校を案内してくれました。そのとき
に驚いたのは、韓国の高校生の勉強
量です。朝早くから夜10時まで学校
で勉強しているというのです。一方
で、教育改革で中学校に自由学期制
が導入されたそうです。これは、1
学期間を選んで、半日は教科の授業、
半日は自分の進路を考えるためにさ
まざまな生徒参加型活動を取り入れ
るというものです。背景には、詰め
込み教育の弊害や、自己肯定感の低

さなどがあるようです。かなり大き
な改革でも決まったらすぐに実行す
る国の方針には驚きました。
わずか4日間でしたが、学校現場
を訪問し、教育関連機関の人たちと
交流したことで、メディアから伝わっ
てくる反日感情ばかりではないこと
が体感できました。韓国との国際交
流のハードルはぐっと下がりました。



大田外国語学校で生徒に
案内してもらった北川校長。

안녕하세요!

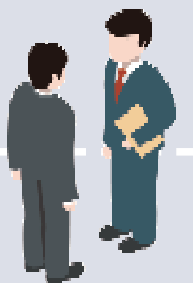
〔事業データ〕

隣語教育に取り組む日韓の校長交流プログラム（派遣）

期間：8/11（火）～14（金）、場所：韓国・ソウル、大田市、主催：神奈川韓国総合教育院、東京韓国教育院、TJF、助成：東京韓国教育院、参加者：7名
※8/13（木）に、日韓校長・教師交流会を国際交流基金ソウル日本文化センターと共催した。

日本 常に見えてくること

中国で日本語教育を実施している高校の校長を日本に招聘するプログラム、
そして日本で韓国語教育を実施している高校の校長を韓国に派遣するプロ
ラムを実施しました。滞在中は、学校現場を訪れて、管理職や教師、生徒と
交流したり、日常生活の一部を体験してもらいました。





インターネットラジオ
「ごちそうリミックス」
配信中!



メールマガジン
「わやわや」を
お届けします

メールマガジン「わやわや」を月2回
配信しています。2015年度は、旬
な食材と世界の料理を紹介するコー
ナー「おいしい話あります!」をメルマ
ガに掲載するほか、インターネットラ
ジオを始めました。ラジオではTJF
スタッフがパーソナリティとして、こ
のコーナーの寄稿者でもある各国郷土
料理研究家の青木ゆり子氏とともに世
界のさまざまな食の話を繰り広げてい
ます。

「おいしい話あります!」



ポルトガルの
「カルネ・デ・ポルコ・ア・アレンテジャーナ」
(豚とクラムの蒸し焼き)

【材料】2~3人前

豚肉.....角切り 250g / クラム (あさり、または小さいはまぐり).....250g (水洗いし、砂を吐かせておく) / たまねぎ.....中1個 (みじん切り) / にんにく.....3かけ (みじん切り) / 白ワイン.....1カップ / 塩.....少々 / 黒しょう油.....少々 / パプリカ粉.....小さじ1 / オリーブオイル.....少々 / 月桂樹の葉.....1枚 / コリアンダー (香菜) の葉 (みじん切り).....大さじ1程度 / イタリアンパセリ (みじん切り).....大さじ1程度 / レモン.....半個 (くし型にカット)

【作り方】

1. 豚肉に塩、黒しょう油、パプリカ粉をまぶし、ラップをして冷蔵庫で30分以上寝かせる。
2. フライパンにオリーブオイルを熱し、たまねぎ、にんにくのみじん切りを少し色づくまで炒める。
3. 2に1の豚肉を加えて火を通す。
4. 3にクラムを加え、さらに白ワイン、月桂樹の葉を加えてふたをし、強火で熱し、貝を開かせる。
5. 4をお皿に盛り、みじん切りにしたコリアンダーの葉とイタリアンパセリをふりかけ、お好みでレモンを絞って、できあがり



グリーンカレー

(ゲーンキョウワン)

角切り 300g / ココナツミルク.....1缶 (400ml) ※ココナツミ
ルク / グリーンカレーペースト.....大さじ1 (辛いのが好きな方は
大さじ2) / 食べやすい大きさにカット / ナス.....3本 (一口大
にカット) / ナンブラー.....(ニョクマムやしよつるなど、
大さじ2 / きび砂糖.....大さじ1 (なければ白砂糖でもよい) / 赤パ
プリカ.....半個 (飾り用、細切り) / ごはん.....お好みで好きなだけ

ペーストを全体の1/3程度入れ、中火でグリーンカレーペーストを
ずつつけて溶かしていく。

グリーンカレーペーストにからませながら火を通し、火が通
くを加えて熱する。

ペーストを加えて、5分ほど煮る。続いてナンブラーときび砂糖を加

「おいしい話あります!」のほか

TJF 主催の研修や交流プログラムの募集、イベントの案内などの情報をお届けしています。ぜひご登録ください。

メルマガわやわや

検索



Vietnam



『五味版ベトナム語辞典』
を刊行した五味政信一橋大
学教授が辞書をつくったと
きのエピソードやほかの
ベトナム語辞典との比較
をユーモアを交えて語っ
た後、ベトナム語のミニ授業
を行った。

Chinese knotting



中国結び作家のみな
みりょうこ氏がテー
ブルを回って、作り
方を丁寧に指導。

OWARAI

お笑い芸人であり演
出家でもある IKKAN
氏が、エピソードを
どのようにしたらお
もしろい物語にでき
るか一人ずつにアド
バイス。



Thailand



暮らしの中の祈りを
テーマに、タイの宗
教や土地神祠を加納
寛愛知大学教授が解
説した。

【事業データ】

ベトナム語辞典を編む

暮らしの中の祈り〜タイの民間信仰

中国結び

日本のお笑い: 笑えるトーク

期日: 7/4 (土)、場所: 東京・TJF、協力: 武蔵野大学出版会、講師: 五味政信 (一橋大学教授)、参加者: 26名

期日: 11/7 (土)、場所: 東京・講談社、講師: 加納寛 (愛知大学教授)、参加者: 18名

期日: 11/28 (土)、場所: 東京・日中学院、主催: 日中学院、TJF、助成: 漢語橋基金、講師: みなみりょうこ、参加者: 32名

期日: 12/19 (土)、場所: 東京・TJF、講師: IKKAN、参加者: 15名

りんごをかじろう
知らないことばに
ワクワク感を
出会う

TJFでは隣の人とつながるためのことばを「隣語」と呼んでいま
す。さまざまな言語や文化にふれて、心にりんごを実らせよう、と
いう主旨で始まった「りんごをかじろう」プログラム。2015年度
は、ベトナム、タイ、中国結び、お笑いを取り上げました。

「次のテーマは何だろう」

TOMAKI

初めて参加したのは、2014年のポルトガルの
会でした。講師の永武ひかるさんの話を聞きた
くして参加したのです。その後、ブータン、ベトナム、
タイ、お笑いの会に行きました。もともと私自身
が海外に興味があったというのもあるのですが、
ことばだけでなく、講師の方のエピソードだっ
たり、その土地のお菓子や飲み物を口にできたりと
文化にもしっかりふれることができることにひか
れました。ブータンの会では、ゾンカ語のことを
知り、ヤクのバター茶を飲みました。こんなこ
とばをしゃべる人がいて、全く知らない文化が存在
することにワクワクしました。ベトナムの会では、
ベトナム語辞典をつくったウラ話を聞き「ほ〜」と
思い、その3ヵ月後に家族でベトナムを旅してき
ました。お笑いの会では自分の体験を物語にして
いく楽しさを実感しました。意表を突くテーマ設
定に、次回は何だろうと、期待させられています。

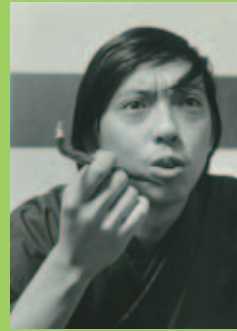
応援団からのメッセージ

2013年6月、新しい世界に踏み出そうとする若い人たちを、寄付とメッセージで応援していただくために、「りんご記念日寄付キャンペーン」を始めました。また、2014年から、さまざまな分野で活躍されている著名な方々に応援団になっていただきました。



黒鉄ヒロシさん (漫画家)

美大に進学しようとしていた1960年代。世の中は「キューバ危機」「ベルリンの壁出現」そして「ビートルズのレコードデビュー」など、第二の文明開化ともいえる激しい変化に見舞われていた。だから黒鉄さんの隣語は英語であり、記念日は自身の誕生日なのである。



宇佐美慎吾さん (俳優)

オーストラリアで俳優として活躍している宇佐美さんは大学卒業後、日本語教師助手としてアメリカに渡った。「自分は日本社会の『レール』から外れたのだ、もう今さら帰れないのだと妙に悲壮な気持ち」だったと語る。



内館牧子さん (脚本家)

脚本家をめざし、13年半にわたる会社員生活にピリオドを打った内館さん。退社の日、同僚や上司の前で「向田邦子になります」と宣言した。それ以来、すべて日本語で押し通す。内館さんの隣語は「日本語」。



石川直樹さん (写真家)

高校2年の夏、インドとネパールを旅して、全身でさまざまなことを感じる大切さを痛感した。自分の目で見、耳で聞き、身体全体で感じて驚いていた、そのためにも生きた英語を身につけることが大切だと語る。



村上豊さん (画家)

20代の後半、村上さんは中国の国慶節に招かれた。カメラを何台も持参して撮影したが、帰国後、映像を見ても「中身」は感じられなかった。それ以来、旅にはカメラもスケッチブックも持たずに行き、自分の目で見て頭に残るものだけでよいと思うようになった。



奥本大三郎さん

(翻訳家・ファール昆虫館「虫の詩人の館」館長)

小学生のとき、誕生日に昆虫図鑑をもらい、昆虫の名前に和名やラテン語の学名などがあると知った。奥本さんは、その後ラテン語を独学したが、その知識はフランス文学を学ぶのにも役立った。



松原秀行さん (児童文学作家)

幼稚園のころに英語を習い始め、意味もわからず歌った英語の歌は長らく耳に残った。高校時代に聴いたビートルズの歌詞も、空耳アワーの世界。しかしその空耳が、後年、作品の登場人物の名前として生きたのだ。



笑福亭銀瓶さん (落語家)

銀瓶さんは、在日コリアンだが韓国語がわからなかった。初めて「ご先祖様の国」に行っても、期待していたような感動がない。「韓国語ができれば違っていたかもしれない」と感じ、猛勉強。韓国の学生たちの前で、韓国語で落語を披露した。



応援団の方々を含め、りんご記念日寄付キャンペーンに85名の方からメッセージをお寄せいただきました。メッセージには、新しい世界に踏み出したときの体験やそのときの思いがつつられています。皆さまのメッセージは以下でご覧いただけます。なお、キャンペーンは2016年6月末をもって終了しました。ご賛同くださった方々、ありがとうございました。
<http://tjf.or.jp/ringokinenbi/>

※ 2015年8月以降に届いた応援団8名の方々のメッセージを含め応援団20名のメッセージはこちらからご覧いただけます。



NEWS

TJFは2015年度、日本の中国語教育、日韓の教育交流に関する二つの賞を受賞しました。二つの受賞は、さまざまな形で私たちの事業を支えてくださった多くの方々のおかげによるものです。また、1987年の財団設立以来、地道に事業を積み重ねてきた諸先輩の努力の賜物でもあります。

「日中学院倉石賞」は、日中学院の創設者である倉石武四郎先生が亡くなられた後、ご遺族から日中学院に贈られた寄付を基金として創設されました。民間で中国語教育の普及、向上および日中文化交流などに貢献した個人、団体を表彰するもので、1989年に第1回の授賞が行われました。2016年2月20日、日中学院の教室で行われた第19回授賞式で、野間省伸評議員会長の代理として山根隆評議員が表彰を受けました。



日中学院吉田隆司学院長より
表彰状を受ける山根評議員

日中学院倉石賞

日韓の教育交流への 貢献に対する大臣表彰



(左から4人め) イ・ジュンシク長官、(同5人め) 馳浩文部科学大臣、(右端) 内藤常務理事

「日韓の教育交流への貢献に対する大臣表彰」は日韓国交正常化50周年の2015年8月に開かれた日韓教育交流サミットで創設されました。日韓の教育交流に貢献した個人、団体に対し、両国の文部科学大臣(韓国は教育部長官)が連名で表彰するものです。2016年1月30日、韓国ソウルにおいて第1回の授賞式が行われました。日本側は九州産業大学付属九州高校、九州大学韓国研究センターとTJFの3団体、韓国側は、釜山外国語大学のチョン・ギヨン教授、チョンソク高校のシン・ソンギョン教諭、仁川海洋科学高校のリュ・デソン教諭の3個人が、馳浩文部科学大臣とイ・ジュンシク副総理兼教育部長官より表彰を受けました。

TJFは皆さまからご協力、ご支援をいただき事業を行っています。
2015、2016年度も下記の皆さまに支えていただきながら事業を進めています。
改めましてお礼を申し上げます。

賛助会員

〔法人〕

2015年度

伊藤忠紙パルプ(株) 王子製紙(株) 鹿島建設(株) 春日製紙工業(株) キングレコード(株) 共同印刷(株) (株) 廣済堂 (株) 講談社ビジネスパートナーズ (株) 光文社 (株) 国宝社 (株) 資生堂 (株) 世界思想社教学社 第一紙業(株) (株) 第一通信社 大二製紙(株) 大日本印刷(株) (株) 太洋社 (株) 電通 (株) トーハン 図書印刷(株) 凸版印刷(株) 豊国印刷(株) 日興紙業(株) 日本出版販売(株) 日本製紙(株) 日商岩井紙パルプ(株) 日本図書普及(株) (株) フォーネット社 富士ゼロックス東京(株) 北越紀州製紙(株) 丸王製紙(株) 丸住製紙(株) 丸紅紙パルプ販売(株) (株) 三井住友銀行 三井住友信託銀行(株) 三菱製紙販売(株) (株) 三菱東京UFJ銀行 (株) 本貴 (株) 彌生洋紙店

2016年度

伊藤忠紙パルプ(株) 王子製紙(株) 鹿島建設(株) 春日製紙工業(株) キングレコード(株) 共同印刷(株) (株) 講談社ビジネスパートナーズ (株) 光文社 (株) 国宝社 (株) 資生堂 (株) 世界思想社教学社 第一紙業(株) (株) 第一通信社 大二製紙(株) 大日本印刷(株) (株) 電通 (株) トーハン 図書印刷(株) 凸版印刷(株) 豊国印刷(株) 日興紙業(株) 日本出版販売(株) 日本製紙(株) 日本図書普及(株) (株) フォーネット社 富士ゼロックス東京(株) 二葉製本(株) 北越紀州製紙(株) 丸王製紙(株) 丸住製紙(株) 丸紅紙パルプ販売(株) (株) 三井住友銀行 三井住友信託銀行(株) 三菱製紙販売(株) (株) 三菱東京UFJ銀行 (株) 彌生洋紙店

〔個人〕

2015年度

石井誠 市原徳郎 カイト由利子 鈴木茂次 高崎孝 高嶋伸和 浜田博信 細谷美代子 松井外恵 柳川敦重 匿名希望1名

2016年度

石井誠 市原徳郎 カイト由利子 高嶋伸和 浜田博信 細谷美代子 松井外恵 柳川敦重 匿名希望1名

助成団体

2015年度

漢語橋基金 (一社) 尚友倶楽部 (公財) 双日国際交流財団 (公財) 東華教育文化交流財団 東京韓国教育院 (公財) 東芝国際交流財団 (公財) 日韓文化交流基金 (公財) 三菱UFJ国際財団

2016年度

漢語橋基金 (一社) 尚友倶楽部 (公財) 双日国際交流財団 東京韓国教育院 (公財) 三菱UFJ国際財団

寄付者

2015年度

(株) 講談社 石井恵理子 石川直樹 泉文明 宇佐美慎吾 内館牧子 内田憲孝 及川伊佐子 王安 大月実 小川竹虎 温悠 角谷昭美 門脇薫 川津英一郎 黒鉄ヒロシ 顧文君 笹野和恵 佐藤篤 佐藤宏子 佐藤美津子 佐野実 澤口梅子 澤邊裕子 ジエイエツチシー(株) 笑福亭銀瓶 高田早苗 田沼武能 千場由美子 唐涛 中村健治 中村條二 並木孝幸 西堀勝仁 仁禮博徳 長谷川由紀子 長谷川義人 藤掛敏也 藤田清隆 堀川秀咲 前田誠朗 政岡潔子 松崎真日 丸山悠輝 三田崇文 宮内孝子 村岡波子 森田英幸 森伸治 森脇美栄子 山田秀二 山本容子 山本義明 弓野克彦 横田雅弘 吉田玉果 匿名希望1名

2016年度

(株) 講談社 奥本大三郎 門脇薫 古石篤子 阪上彩子 小溪教材研究チーム 西山郁枝 阪堂千津子 石下景教 ボンダレンコ・オクサーナ 松原秀行 丸山悠輝 三田崇文 宮崎健 村上豊

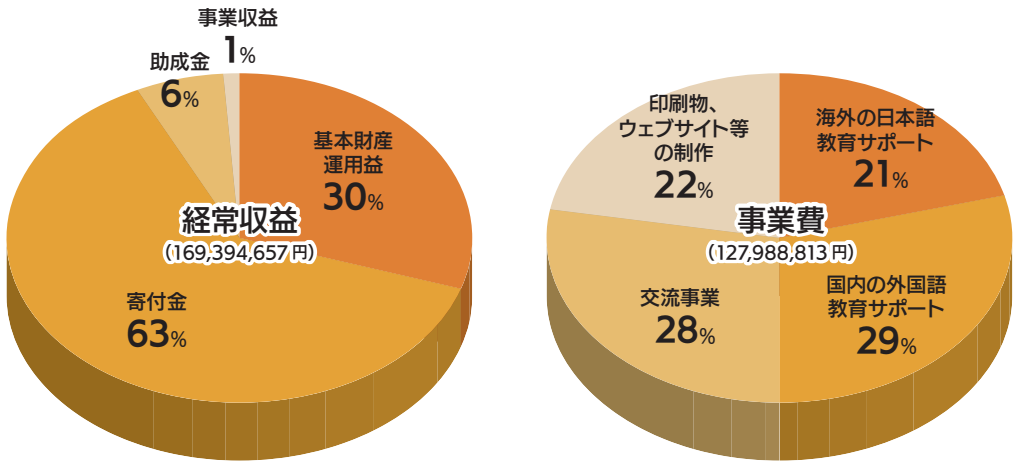
コラボレーター

2015年度

五十嵐加代子 大森美和 中島悠 和田利一

(敬称略 五十音順 2016年7月31日現在)

設立	1987年6月22日 2011年4月1日、公益財団法人に移行
出捐企業	王子製紙株式会社、株式会社講談社 大日本印刷株式会社、凸版印刷株式会社 日本製紙株式会社、株式会社三菱東京UFJ銀行
基本財産	20億円
財政規模	2015年度の経常収益は約1億6,900万円、 事業費は約1億2,800万円でした。 内訳は以下の通りです。



サポートのお願い

さまざまなことばや文化の学び、交流を通じて、子どもたちが21世紀を生きぬく力をはぐくむことがTJFのミッションです。このミッションを達成するために、共感していただける方々に次のようなご支援をお願いしております。

■寄付
TJFの活動全体に対する寄付、特定の事業を指定する寄付があります。

■賛助会員
継続的な支援をしていただける方に賛助会員になっていただいています。
年会費：法人会員一口 50,000円
個人会員一口 10,000円

寄付金につきましては、税制上の優遇措置が適用され、所得税や法人税の控除を受けることができます。さらに、個人寄付者の皆さまには確定申告の際、減税効果の高い「税額控除方式」を選択していただけます。

ご支援くださる方々には、TJFが発行する印刷物を送付するほか、TJFが主催するイベントのご案内を差し上げています。



2016年度の事業

海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業

1. 中国における日本語教育の促進
▶『好朋友』活用のための教師研修(中国・上海)
2. 日本の文化と人びとの紹介ウェブサイト「くりっくにっぽん」の運営

日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業

1. 「外国語学習のめやす」活用の促進
▶「外国語学習のめやす」マスターと研修を共催
▶めやすWebの運営
2. 21世紀型の能力育成をめざした教員研修、生徒向けプログラムの開発・実施
3. 隣語講座の開催
▶中高生のための韓国語講座・中国語講座
▶保護者・教師向け講演

国内外の小中高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業

1. 日韓の中高校生交流プログラム「SEOULでダンス・ダンス・ダンス 2016」(韓国・ソウル)
2. 日韓の校長交流プログラム(韓国・ソウル)
3. 日露の教師・生徒交流プログラム(ロシア・ノボシビルスク、モスクワ)

広報事業

1. 事業報告『CoReCa』の発行
2. メールマガジン「わやわや」の配信
3. ことばと文化の体験プログラム「りんごをかじろう」

CoReCa 2015-2016

2016年8月発行

公益財団法人国際文化フォーラム

112-0013

東京都文京区音羽 1-17-14 音羽YKビル3F

Tel 03-5981-5226

Fax 03-5981-5227

Email forum@tjf.or.jp

URL www.tjr.or.jp

Facebook facebook.com/TheJapanForum

CoReCa

Collaboration + Relation + Catalyst ▶ CoReCa

人と Collaboration (協働) しながら、Relation (関係) を築いていく。
TJF は人びとをつなぐ Catalyst (触媒) でありたいと思います。

デザイン 山本義明 (goldfish design)
校閲・校正 飯田陽子
印刷・製本 凸版印刷株式会社

財団の概要

評議員会長 評議員

野間 省伸 (株) 講談社代表取締役社長
青山 秀彦 王子製紙 (株) 代表取締役社長
足立 直樹 凸版印刷 (株) 代表取締役会長
北島 義斉 大日本印刷 (株) 代表取締役副社長
長瀬 眞 ANA ホールディングス (株) 顧問
芳賀 義雄 日本製紙 (株) 代表取締役会長
山根 隆 (株) 講談社専務取締役

理事長

渡邊 幸治 * (公財) 日本国際交流センターシニア・フェロー、
元駐ロシア特命全権大使

常務理事

内藤 裕之 * (公財) 国際文化フォーラム常務理事 (常勤)

* は代表理事

理事

上野 田鶴子 特定非営利活動法人日本語教育研究所理事長
梅田 博之 麗澤大学前学長、東京外国語大学名誉教授
金丸 徳雄 (株) 講談社取締役
興水 優 東京外国語大学名誉教授
境 一三 慶應義塾大学経済学部教授
佐藤 郡衛 目白大学学長

監事

清水 至 公認会計士、(国研) 理化学研究所監事
白石 光行 (株) 講談社常任監査役

顧問

小田 厚 (株) トーハン海外事業部長
北島 義俊 大日本印刷 (株) 代表取締役社長
酒井 和彦 日本出版販売 (株) 取締役
佐藤 信一 日本製紙 (株) 専務執行役員印刷用紙営業本部長
鈴木 孝夫 慶応義塾大学名誉教授
藤田 弘道 凸版印刷 (株) 相談役
鮑 啓東 人材派遣健康保険組合前理事長
三木 繁光 (株) 三菱東京 UFJ 銀行特別顧問
吉田 研作 上智大学教授

任期：評議員一期 4 年、理事・監事・顧問一期 2 年
(敬称略 五十音順 2016 年 6 月末現在)

事務局

事務局長 水口 景子
事務局次長 藤掛 敏也
主任 室中 直美
副主任 千葉 美由紀 長江 春子
職員 柴田 幹子 沈 炫旻 (シム ヒョンミン) 中野 敦 宮川 咲 森 亮介

tjlf